

主要産地における平成25年産水稻の収穫量及び作柄概況等について 第5報（11月29日現在）

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部（平成25年12月2日）

全 国 道 府 県	収穫量				作 況			品質概況等		参 考		
	予想収穫量 (主食用)	前年産主食用 収穫量	前年産収穫量 (確定値)との比較		作況指数 25年産	作況指数 24年産	前年産との比較 対 差	25年産水稻うるち 玄米1等米比率 (25年10月末)	24年産水稻うるち 玄米1等米比率 (24年10月末)	生産数量目標		
			対 差	対 比						平成26年産	前年産との比較	増減率
全 国	t	t	t	%				%	%	t	t	%
全 国	8,183,000	8,210,000	△27,000	99.7	102	102	0	80.2	79.1	7,650,000	▲ 260,000	▲ 3.3
北 海 道	601,300	621,800	△20,500	96.7	105	107	▲ 2	90.6	91.9	554,140	▲ 18,800	▲ 3.3
青 森	272,100	279,800	△7,700	97.2	104	106	▲ 2	91.2	83.8	247,000	▲ 12,220	▲ 4.7
岩 手	287,800	292,900	△5,100	98.3	102	105	▲ 3	96.1	94.1	275,540	▲ 10,810	▲ 3.8
宮 城	388,600	387,400	1,200	100.3	104	105	▲ 1	93.9	84.6	362,630	▲ 18,140	▲ 4.8
秋 田	450,200	450,400	△ 200	100.0	100	100	0	92.1	85.2	433,040	▲ 13,390	▲ 3.0
山 形	386,100	380,500	5,600	101.5	102	102	0	95.4	88.6	358,570	▲ 15,630	▲ 4.2
福 島	368,600	367,600	1,000	100.3	104	104	0	93.2	88.5	348,420	▲ 7,440	▲ 2.1
茨 城	398,900	399,600	△ 700	99.8	104	103	1	90.6	88.2	341,550	▲ 7,340	▲ 2.1
栃 木	334,900	331,300	3,600	101.1	102	101	1	89.0	93.2	309,330	▲ 12,220	▲ 3.8
埼 玉	165,900	168,600	△2,700	98.4	98	99	▲ 1	63.2	48.2	152,680	▲ 3,920	▲ 2.5
千 葉	329,100	328,400	700	100.2	104	104	0	93.3	91.6	249,280	▲ 6,420	▲ 2.5
新 潟	594,400	598,700	△4,300	99.3	103	104	▲ 1	76.2	64.4	535,640	▲ 10,030	▲ 1.8
富 山	198,200	194,600	3,600	101.8	102	100	2	68.2	73.2	192,340	▲ 3,920	▲ 2.0
石 川	130,500	132,000	△1,500	98.9	101	101	0	81.9	83.6	126,400	▲ 3,000	▲ 2.3
福 井	134,700	131,800	2,900	102.2	102	100	2	81.6	87.3	128,130	▲ 5,230	▲ 3.9
長 野	213,000	205,000	8,000	103.9	101	98	3	96.4	93.9	196,640	▲ 7,760	▲ 3.8
滋 賀	169,300	170,300	△1,000	99.4	102	102	0	61.7	81.8	163,380	▲ 7,000	▲ 4.1
兵 庫	189,800	188,300	1,500	100.8	100	100	0	40.4	57.9	181,930	▲ 6,010	▲ 3.2
岡 山	163,800	169,200	△5,400	96.8	97	100	▲ 3	65.6	69.6	160,190	▲ 5,850	▲ 3.5
広 島	132,600	137,400	△4,800	96.5	99	103	▲ 4	71.9	86.6	130,130	▲ 4,270	▲ 3.2
山 口	111,000	114,100	△3,100	97.3	97	101	▲ 4	48.6	61.1	110,820	▲ 5,530	▲ 4.8
愛 媛	75,100	74,500	600	100.8	99	98	1	36.1	44.5	74,490	▲ 1,690	▲ 2.2
高 知	57,900	57,500	400	100.7	98	98	0	17.9	19.2	50,050	▲ 1,700	▲ 3.3
福 岡	182,500	185,700	△3,200	98.3	96	98	▲ 2	28.7	37.9	184,380	▲ 6,860	▲ 3.6
熊 本	188,300	188,400	△ 100	99.9	97	97	0	47.6	46.6	189,920	▲ 7,790	▲ 3.9
宮 崎	92,600	89,400	3,200	103.6	100	95	5	56.2	54.4	94,470	▲ 4,660	▲ 4.7
鹿 児 島	112,500	107,600	4,900	104.6	101	96	5	56.7	40.2	111,540	▲ 3,980	▲ 3.4

注1：収穫量、作況については、農林水産省大臣官房統計部の公表資料から抜粋。

注2：水稻うるち玄米1等米比率、生産数量目標については、農林水産省生産局農産部の公表資料から抜粋。

注3：更新箇所については、前回より増加した箇所は二重下線で、減少した箇所は下線で表した。

道府県	品質概況等 自治体等公表資料（公表資料の抜粋）	備考 全農本部等の販売力強化に向けた取組み等 （ホームページ公表資料の取り纏め）
北海道	<ul style="list-style-type: none"> ・ななつぼし玄米の外観は、白未熟粒（乳白粒、腹白粒）や青未熟粒、死米の混入がやや多い。これは天候不順等により刈取適期がやや遅れたことによる。胴割粒や着色粒の混入は少ない。形質については、光沢と粒形は良好である（精米工） ・ゆめぴりか玄米の外観は、ななつぼしと同様に白未熟粒（乳白粒、腹白粒）や青未熟粒、死米の混入がやや多い。これは天候不順等により刈取適期がやや遅れたことによる。胴割粒や着色粒の混入は少ない。形質については、光沢と粒形は良好である（精米工） ・平年に比べ全穀数は少ないものの、登熟は良好の見込（10月15日現在） ・10月前半は全道的に気温が高く、日照時間は少なかつた ・9月の気温は高く日照時間は平年並～少なかつた（10月3日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「2年続けて平均精米タンパク率が基準値に達しなければ、翌年は栽培できない」等、栽培、生産、出荷までの独自の厳しいルールを生産者同士で取り決めるなど全道統一のルール作りでお米の品質をチームで守る
青森	<ul style="list-style-type: none"> ・9月中旬の穂いもち、稲こうじの発生量はやや多かつた（9月20日付） ・台風18号（9月16日上陸）による水陸稲の被害は758ha・216t（11月19日付） ・10月上旬の平均気温はかなり高く、日照時間は少～かなり少なかつた（10月11日付） ・9月の気温は概ね平年並～高く、日照時間は上旬は少なく、中下旬は多かつた 	<ul style="list-style-type: none"> ・県産銘柄米の需要拡大と定着化およびパールブランドを基本とした精米事業の拡大と地産地消の強化 ・産地精米等の取扱強化による精米販売数量の拡大
岩手	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとめぼれ玄米の外観は、白未熟粒（心白粒）の混入がやや目立つものがあるものの、昨年のような高温障害による腹白・背白の発現が少なく、青未熟粒及び胴割粒の混入も少なく良好。着色粒や死米の混入は少ない。形質は、光沢・粒揃い・粒形は昨年よりも良好（精米工） ・出穂期以降は概ね高温・多照で登熟は平年並みの見込（10月30日付） ・台風18号による水陸稲の被害は637ha・909t（11月19日付） ・10月上旬の平均気温はかなり高く、日照時間はかなり少なかつた ・9月の気温は概ね平年並～高く、日照時間は上旬は少なく、中下旬は多かつた 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心（農薬使用回数は通常の4分の1）、食味値での選抜、粒の大きさ（玄米粒2ミリ以上）こだわったひとめぼれを「いわて純情米プレミアム ひとめぼれ」として販売 ・担い手対応の充実に向けた、いわて純情米広域集出荷センターの稼働による集荷拡大
宮城	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとめぼれ玄米の外観は、白未熟粒（心白粒）の混入がやや目立つものがあるものの、昨年のような高温障害による腹白・背白の発現が少なく、青未熟粒及び胴割粒の混入も少なく良好。着色粒や死米の混入は少ない。形質は、光沢・粒揃い・粒形は昨年よりも良好（精米工） ・出穂期以降は概ね高温・多照で登熟は平年並みの見込（10月30日付） ・10月上旬の平均気温はかなり高く、日照時間は少～（沿岸部）かなり少なかつた（10月11日付） ・9月の平均気温は高く、日照時間は多～かなり多かつた（10月1日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・高品質、良食味米の取り組みとして「適期防除の実施」「適期刈取の推進」「基準を厳守した乾燥調整」「異品種混入のない米づくり」を実施中 ・米穀物流改革推進強化に向けた新運合倉庫の設置による集荷拡大
秋田	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿角地域の1等米比率は93.5%で平年よりやや低く推移。等級低下の主原因は斑点米と胴割粒。千粒重は平年よりやや低い状況（11月1日付） ・台風18号による水陸稲の被害は78ha・245t（11月19日付） ・10月上旬の平均気温はかなり高く、日照時間は少～平年並み（10月11日付） ・仙北地域の1等米比率は99.4%（10月4日付） ・9月のカメムシ類の発生量は多いと予報（8月29日付） ・9月の気温は高く、日照時間は平年並～かなり多かつた（10月1日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な需要先に対応できる「あきたこまち」をはじめとした商品ラインナップの整備と、環境に配慮した低コスト・省力化生産が可能な「あきたocoらいず」の生産拡大に取組み、販売・流通体制を広域的に展開しながら販路拡大と流通量確保を推進 ・米穀の播種前・収穫前契約（三者契約・複数年契約含む）の拡大
山形	<ul style="list-style-type: none"> ・はえぬき玄米の外観は、白未熟粒（心白粒）混入がやや目立つものがあるものの、昨年のような高温障害による腹白・背白の発現は少ない。未熟粒の混入の多くは青未熟粒である。胴割粒、被害粒（奇形粒や砕粒）、着色粒（カメムシの被害による）、死米の混入は少なく良好である。形質は、光沢、粒揃い、粒形は昨年よりも良好である（精米工） ・出穂期以降は概ね高温・多照で登熟はやや良の見込（10月30日付） ・10月上旬の平均気温は高く、日照時間は少なかつた（10月11日付） ・9月の気温は高く、日照時間はかなり多かつた（10月1日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「つや姫」のトップブランド定着に向けた取扱数量拡大
福島	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫作業の盛期は平年と比べ県平均では3日、会津地方では6日早 ・成熟期に2回の台風があり倒伏面積が増加したが、整粒歩合への影響は少ない状況。カメムシによる着色粒は出穂の早い品種や山間部で発生が目立つた（11月22日付） ・10月上旬の平均気温はかなり高く、日照時間は会津で平年並み～多く、中・浜通りは少～かなり少ない（10月11日付） ・9月の気温は高く、日照時間はかなり多かつた（10月1日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者の安全・安心への要望に応えるため、栽培履歴が確認された「JA米」の確立に取り組み ・生産者にとって作りやすい品種特性（耐倒伏性、品種収量安定性）の啓蒙を通じた米の県オリジナル品種「天のつぶ」の作付拡大
茨城	<ul style="list-style-type: none"> ・県北と県西の登熟はやや良、鹿行は平年並み、県南はやや不良（10月30日付） ・台風18号による水陸稲の被害は338ha・130t（11月19日付） ・コシヒカリ玄米の外観は、基部や背部に僅かに白濁したものが多く混入していることから、全体に白度がやや高めである。全体的に僅かに高温障害の影響を受けているように感じられる。胴割粒の混入は全体的には少ない。着色粒の混入は平年より少ないが、茶葉や芽粒の混入が散見される。2等以下については、軽度白濁したものが多くことから形質や充実不足によるものが多いように感じられた（精米工） ・9月の気温は高く日照時間は平年並～多かつた 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者の安全・安心へのニーズに応え、JA米や契約生産・契約販売を拡大 ・「ふくまる」「はるみ」の販売に連動した品種作付提案
栃木	<ul style="list-style-type: none"> ・出穂期以降概ね天候に恵まれたものの1種当たりもみ数がやや多かつたことや高温・多照を経過したことで、登熟期間がやや短くなったことに加えて、降雨により倒伏面積が増加したことから登熟は「平年並み」の見込（10月30日付） ・今年も普通栽培でも出穂期以降高温で経過し、胴割れが発生しやすい気温条件。登熟期に断続的に降雨があり、立毛状態で同割れ発生心配も（10月10日付） ・10月上旬の平均気温はかなり高く、日照時間は少～かなり少なかつた（10月11日付） ・9月の気温は全般的に高く、日照時間も全般的にかなり多かつた（10月1日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・播種前、収穫前契約による栃木米の安定的取引の拡充と集荷拡大
埼玉	<ul style="list-style-type: none"> ・県西部の登熟は平年並みの見込、県東部はやや不良の見込（10月30日付） ・10月上旬の平均気温はかなり高く、日照時間は少～かなり少なかつた（10月11日付） ・9月上中旬の気温は平年並～高く、下旬は高かつた。日照時間は上旬で少～平年並、中下旬では多～かなり多かつた 	<ul style="list-style-type: none"> ・「彩のかがやき」「コシヒカリ」を中心に各種媒体やイベントなどで積極的にPRし、埼玉県産米のブランド化と消費拡大を図る ・米の収穫前契約、契約栽培的取引の取組強化
千葉	<ul style="list-style-type: none"> ・出穂期以降やや日照が少なく推移したものの、8月以降気温・日照とも平年を上回って推移したことから登熟は平年並みの見込（10月30日付） ・コシヒカリ玄米の品位は「ふさおとめ」より、未熟粒、胴割粒の混入が多い。腹の混入、着色粒はカメムシによるものが見られるが、概ね普通。精米白度は「ふさおとめ」「ふさこがね」より上がりやすい。精米にすると若干心白、腹白粒が目立つが概ね普通（精米工） 	<ul style="list-style-type: none"> ・良食味の早場産地として、新米の香りを全国に先駆けて食卓に届ける役割を担い、生産履歴の記録により安全・安心を確保と安定した品質で良食味の「千葉菜の花米」の生産に取り組み ・米穀卸・実需者の動向調査をふまえた収穫前契約の促進
新潟	<ul style="list-style-type: none"> ・魚沼地区コシヒカリの玄米の外観については、肌ずれは見られず、光沢があり、粒ぞろいも良い。胚芽がやや目立つものも見受けられる。未熟粒では、青未熟粒が多く見られるが、白未熟粒は少ない。着色粒、死米については少ない。胴割粒は地域によってバラツキが見られる（精米工） ・県作物研究センター生育調査圃場での登熟歩合は70%でほぼ平年並み、玄米タンパク質含有量は5.7%でほぼ平年並み（11月1日付） ・コシヒカリの格別を要因は青未熟・乳白粒、充実度不足の順（11月1日付） ・台風18号による水陸稲の被害は13,900ha・961t（11月19日付） ・コシヒカリ玄米の外観については、肌ずれが少なく、光沢もある。形質については、2等では青未熟粒がやや目立つが、1等では少なく、カメムシによる着色粒も少ない。胴割粒は地域によるバラツキが見られる（精米工） ・9月の気温は上旬は低く、中下旬は高かつた。日照時間は上旬は少なく、中下旬は全般的に多かつた 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者、関係機関と一体となって、高品質・良食味米の安定生産と環境にやさしい米づくりに力をいれ、おいしさ、安全・安心、環境保全日本一の「新潟米」を目指す ・早期の需要確保と卸・実需者との結びつき強化に向けた播種前・収穫前契約の推進

	品質概況等	備考
富山	<ul style="list-style-type: none"> ・玄米の外観については、基部にわずかな白濁があるものや全粉状の白未熟粒が見られるものがあった。肌ずれなどがあり、光沢がやや劣るものも見られた。胴割粒は、地域によりバラツキが見られる。カメムシによる着色粒は比較的少ない（精米工） ・出穂期以降は好天で経過したことから登熟はやや良（10月30日付） ・9月の気温は平年並み、日照時間はかなり多かった（10月8日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・富山米ブランドの確立に向けた県行政とのタイアップによる首都圏での販売促進キャンペーンの実施、産地精米の拡大
石川	<ul style="list-style-type: none"> ・コシヒカリの玄米の外観については、地域により肌ずれが目立ち、光沢が少ないものもあるが、全体的には、粒ぞろいも良く、青未熟粒、白未熟粒ともに少ない。胴割粒は地域によりバラツキが見られる。カメムシ等による着色粒の混入も少ない（精米工） ・出穂期以降、降雨による倒伏が見られたものの概ね好天に恵まれたことから登熟は平年並み（10月30日付） ・9月の気温は平年並、日照時間は多〜かなり多かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・高品質で安心できる石川米のために「種子は契約農場で計画的に生産」「品質と食味の向上、安全安心への生産指導を徹底」「刈取後の管理も徹底し、高品質の米に調整」「農産物検査を適正に実施」「品質維持のため、倉庫での保管管理を徹底」「輸送段階での管理の徹底」「卸や消費者の意見を産地へ届ける」 ・石川県産米の需要定着に向けた播種前・収穫前契約の拡大
福井	<ul style="list-style-type: none"> ・出穂最盛期後20日余りの間、高温多照で経過したことから登熟はやや良の見込（10月30日付） ・台風18号による水陸稲の被害は180ha・275t（11月19日付） ・2等以下低付理由は中生や晩生品種の乳白、胴割米など（10月31日付） ・9月の気温は平年並、日照時間は多〜かなり多かった（10月9日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・福井米の安定品質確保のために「食味評価特A評価定着のための技術指導の推進」「県下全域でエコファーマーを推進」「選別田植えと直播栽培の徹底」「土づくり適切な水管理の徹底」「適正作付比率の推進」
長野	<ul style="list-style-type: none"> ・コシヒカリ玄米の外観は、白未熟粒の混入は少なく、その他未熟粒の混入も少ない。地域によりわずかに肌ずれが見られるものもあるが、全体的に光沢は概ね良好であり、粒形・粒ぞろいも良好である。胴割粒は地域によりバラツキがあり、軽度には割れが入った粒が散見される。着色粒の混入は少ない（精米工） ・あきたこまち玄米の外観は、白未熟粒の混入は少なく、その他未熟粒の混入も少ない。光沢・粒形・粒ぞろいは良好である。胴割粒は地域によりバラツキがあるが、全体的には少ない。着色粒や死米の混入は少ない。（精米工） ・出穂・開花期及び登熟期間の天候に恵まれたことと、病虫害や風水害などによる被害が平年並みにとどまったことから登熟はやや良の見込（10月30日付） ・斑点米カメムシ類の発生量南信及び中信地方の一部で多かった（9月9日付） ・9月の気温は平年並、日照時間はかなり多かった（10月1日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内取引先との連携を強化した長野県県内シェアの拡大
滋賀	<ul style="list-style-type: none"> ・近江米新品種「みずかがみ」の推進シンポジウムを来月18日（土）に開催（11月28日付） ・出穂期以降概ね好天に恵まれたことから登熟は平年並み（10月30日付） ・台風18号による水陸稲の被害は782ha・370t（11月19日付） ・9月の気温は上旬は低〜かなり低く、中下旬は平年並〜高かった。日照時間は上旬は少〜かなり少なく、中下旬はかなり多かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・より消費者ニーズに合った、安全で安心なおいしい近江米づくりをめざして、滋賀のJA米の確立や環境にこだわった農業の推進を図るとともに、安定的な取り引きの拡大に関係機関一体となって取り組む ・実需者と結び付いた米の播種前・収穫前契約販売の強化
兵庫	<ul style="list-style-type: none"> ・JAハリマ管内では、夏の高温や収穫時期の長雨による刈取時期の遅れがあり、1等米比率は10月現在で78.4%。等級低下の第一位は乳白米（11月13日発行「JAハリマの営農情報」） ・出穂後の気温日較差・日照時間は概ね平年を上回って経過したことから稔実率は平年並みとなったものの、高温で経過したことに加え台風やいもち病・ウンカ等の病虫害により登熟が阻害されたことから登熟はやや不良の見込（10月30日付） ・台風18号による水陸稲の被害は1050ha・229t（11月19日付） ・10月のヒメトビウカの発生量は多いと予報（10月4日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・良質米づくりの重点目標（適期刈取の徹底、玄米水分14.5〜15%に統一、量目の統一、着色粒・胴割粒・乳白粒の発生防止の徹底、穀・麦・草種・石・土・砂など異物混入防止、乾燥調製施設の品質事故防止の徹底）を掲げ、その指導を実施
岡山	<ul style="list-style-type: none"> ・8月下旬から9月上旬にかけての停滞前線による天候不順の影響に加え、トビウロウカやいもち病等の被害拡大により登熟が抑制・阻害されたことから県南部、県中北部ともに登熟は不良の見込（10月30日付） ・10月のトビウロウカの発生量はやや多いと予報（10月2日付） ・9月の気温は平年並、日照時間は多〜かなり多かった（10月8日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・JAをコンピューターで結んだ「JA良質米情報ネットワークシステム」を活用し、各JA管内で集荷されたお米の中から、品質・食味ともに優れた地域で「うまい米」を厳選
広島	<ul style="list-style-type: none"> ・8月下旬から9月上旬の曇雨天による影響及び9月中旬から10月中旬にかけての高温により稲の活力が低下したことから登熟はやや不良の見込み（10月30日付） ・10月上旬の平均気温は平年よりかなり高く、日照時間は平年並み〜少なかった（10月11日付） ・9月の気温は上旬はかなり低く、中下旬は高かった。日照時間は上旬は少なく、中下旬はかなり多かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・精米販売の拡大対策として、JAグループを挙げた米頒布会の取り組みの実施
山口	<ul style="list-style-type: none"> ・早生種では登熟期に高夜温が続いたこと、7月下旬の集中豪雨により一部冠水した圃場があったこと及び8月下旬から9月上旬の降雨により倒伏が発生したこと、中・晩生種では8月下旬から9月上旬までの日照不足と9月下旬以降に瀬戸内沿岸部を中心としたウンカ被害が拡大したことにより、登熟はやや不良（10月30日付） ・8月末からの長雨と倒伏により収穫期が7〜10日程度遅れたものが多く、またくず米が多く、上位等級比率も昨年より低く推移（10月2日付） ・9月の気温は高く、日照時間は多かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫前契約、用途別結び付き玄米販売の拡大
愛媛	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒノヒカリ等の開花期に降雨が続く受粉不良となったことに加えて登熟期である9月中旬以降気温が高くて推移したこと、更にはウンカの被害が加わり、粒の肥大・充実がやや悪い（10月30日付） ・アカスジカシマカの誘殺数は平年並み（10月3日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者ニーズと適地適作を基本として、「売れる米づくり」とブランド化を推進 ・行政・JAと連携した多収性新品種「みつひかり」および高温耐性品種「にこまる」の実証圃試験ならびに省力・低コスト技術（鉄コーティング湛水直播栽培）の普及試験の実施
高知	<ul style="list-style-type: none"> ・（早期栽培）7月上旬の梅雨明け以降、高温・多照で経過したことから、全もみ数が少ないことによる補償作用が働き登熟はやや良（10月30日付） ・（普通栽培）7月以降の高温・少雨の影響により不稔もみの発生がやや多かったことに加え、稲体の消耗や病虫害の多発により粒の肥大・充実がやや不良と見込まれることから登熟は総じて不良の見込み（10月30日付） ・コシヒカリ玄米の外観は、7月の出回り初期のものには青未熟粒の混入が多く見られた。8月になってからのものは、青未熟粒は減ったが、基部未熟粒を主体とした白未熟粒の混入が見られた。本年は、平年より梅雨入り梅雨明けとも10日程度早く、梅雨の間の降水量は平年並みよりやや多かったことから、かなり順調な生育であった。梅雨明け以降は降水量が少なかったことから生育が進み、収穫期が早まり、青未熟粒などの混入が増えた。これまでの2等以下への落等の理由は、整粒不足・着色粒の混入などと思われる。なお、1等比率は低いものの、近年の作柄と比較すると、粒に光沢もあり、高温障害の影響が少ないことから、玄米の見目はきれいである（精米工） 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別栽培米や産地銘柄米の取組強化および良食味米をはじめとする高品質米生産の取り組み
福岡	<ul style="list-style-type: none"> ・高温障害及びウンカによる登熟阻害がみられるため、登熟は平年に比べて低下する見込（10月30日付） ・中・晩生品種でトビウロウカによる「坪枯れ」が急激に拡大（9月25日付） ・9月の気温は平年並〜高く、日照時間は多〜かなり多かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消・食育の取組強化に向けた学校給食米の一元供給および福岡県産米の新品種「元気づくし」の作付拡大
熊本	<ul style="list-style-type: none"> ・天草地帯は概ね天候に恵まれたことから登熟はやや良の見込、県南地帯は平年並み県北・阿蘇地帯は雨天、ウンカ被害等によりやや不良の見込（10月30日付） ・消費者の期待に応えることができる米を生産・出荷し県産米のブランド力や価値をさらに高め、有利な販売を展開し、農家所得向上につなげていくため、熊本県推奨うまい米基準（県推奨基準）を設定（10月24日付）（熊本県） ・9月において中生品種でトビウロウカによる「坪枯れ」を確認（9月30日付） ・9月の気温は平年並〜高く、日照時間は平年並〜かなり多かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・播種前・収穫前契約を基本とし実需者を特定した契約をすすめ、安定した販路確保を目指す。卸主体の玄米販売から、実需者との結び付きを意識した生産（川上）から精米販売（川下）までの一貫した事業展開により販路力を強化

	品質概況等	備考
宮 崎	<ul style="list-style-type: none"> ・（早期栽培）出穂最盛期の低温寡照の影響はあったものの、7月以降は高温・多照で経過したことから登熟は平年並み（10月30日付） ・（普通栽培）9月上旬及び10月上旬の日照不足と多発したトビイロウンカの加害の影響や、もみ数が多いことから登熟は不良の見込（10月30日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者や取引先の求める「安全・安心」に応える為に、生産履歴の記録に取組み、更には残留農薬検査も行う
鹿 児 島	<ul style="list-style-type: none"> ・（早期栽培）梅雨明け以降、日照時間が平年を大きく上回ったことや気温日較差が大きかったことに加え、全もみ数がやや少なかったことによる補償作用もあり登熟は良10月30日付） ・（普通栽培）出穂期後は台風の影響により曇雨天日が続いたものの、それ以降は概ね天候に恵まれていることから登熟は平年並みの見込（10月30日付） ・コシヒカリ玄米の外観は、出回り初期のものには青未熟粒の混入が多かったが8月中旬以降入手したサンプルでの混入は少なくなっていた。また、白未熟粒の混入は少なく、見目はかなり良い。着色粒はカメムシによるものが見られ、落等の要因になったものもあるが、総体的には少ない。登熟期（7月）は、気温がやや高めに推移し、降水量が少なく、日照時間が長かったことから、平年より早い出回りとなった。産地によっては、高温障害の影響によると思われる白未熟粒の混入が見られるが、混入は僅かである（精米工） ・9月の気温は高～かなり高く、日照時間は多～かなり多かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・「担い手農家の経営規模に応じた事業提案力や支援対応力の強化」「消費者に届ける、安全・安心な産物とコミュニケーション」等の視点から「生産基盤の維持強化につながる事業構築と農家所得の向上につながる販売機能強化およびコスト削減への積極的な取り組み」等を基本戦略として展開

注1：自治体等公表資料については地方自治体及び出先機関等が公表している資料から抜粋、日付は公表日。

注2：備考欄のイタリク体はホクレン農業協同組合及び全農本部等のホームページで公表されている資料を基に取組み、ゴシック体は全国農業協同組合連合会のホームページで公表されている資料から抜粋。

注3：（精米工）とあるものは、一般社団法人日本精米工業会が提供している「米質概況情報」から抜粋。但し「米質概況情報」は一般社団法人日本精米工業会が正会員精米工場から得たサンプル（玄米）を測定したものであり、母集団として産地の評価を決めるものではない。

注4：更新箇所については下線で表した。

参考資料

平成25年度産米の作付面積及び予想収穫量(10月15日現在)(農林水産省、北海道農政事務所、東北農政局、関東農政局、北陸農政局、近畿農政局、中国四国農政局、九州農政局)、
平成24年度産米の収穫量(農林水産省)、
平成25年度産米の農産物検査結果(速報値/平成25年10月31日現在)(農林水産省)、
平成24年度産米の農産物検査結果(速報値/平成24年10月31日現在)(農林水産省)、
平成25年度産米の都道府県別の生産数量目標について(農林水産省)、
被害応急調査結果(平成25年7月～9月)(農林水産省)、
一般社団法人日本精米工業会「平成25年度米質概況情報」(8/22、8/28、9/20、10/21、11/1、11/19、11/21、11/29)

平成25年度水稲病害虫発生状況第3号(9月中旬)(9月20日)(青森県病害虫防除所)、青森県農業気象速報第34巻25～27号(青森県、青森地方気象台)、
岩手県農業気象速報第34巻25～28号(岩手県、盛岡地方気象台)、平成25年度産米の刈取状況について(10月8日現在)(宮城県)、
平成25年度発生予察情報注意報第3号(7月31日)(宮城県病害虫防除所)、宮城県農業気象速報第34巻28号(宮城県、仙台管区気象台)、
平成25年度生育状況報告11月1日号(秋田県)、農作物病害虫発生予察情報発生予報第6号(9月予報)(秋田県病害虫防除所)、
秋田県農業気象速報第34巻25～28号(秋田県、秋田地方気象台)、平成25年8月9日からの大雨による被害状況等について(秋田県)、
山形県農業気象速報第4巻25～28号(山形県、山形地方気象台)、主要な農作物の生育状況平成25年度第8号(福島県)、
福島県農業気象速報第34巻25～28号(福島県、福島地方気象台)、茨城県農業気象速報第34巻25～27号(茨城県、水戸地方気象台)、
平成25年度水稲生育診断予測事業速報No.10(10月10日現在)(栃木県)、栃木県の平成25年9月の気象(速報)(10月1日)(宇都宮地方気象台)、
栃木県農業気象速報第34巻28号(栃木県、宇都宮地方気象台)、埼玉県農業気象速報第36巻25～27号(埼玉県、熊谷地方気象台)、
平成25年度産米の作柄概況等について(第12号)(新潟県)、新潟県の気象・地震概況平成25年9月(簡易版)(新潟地方気象台)、
病害虫発生予報第6号(富山県農林水産総合技術センター所長)、富山県の気象・地震概況平成25年9月簡易版(富山地方気象台)、
石川県の気象・地震概況平成25年9月(簡易版)(金沢地方気象台)、今月の農業技術(水稲11月)(福井県ふくいアグリネット)、
福井県の気象・地震概況平成25年9月(簡易版)(福井地方気象台)、8月下旬の水稲巡回調査結果の概要等について(9月9日)(長野県病害虫防除所)、
平成25年9月の長野県内の天候(長野地方気象台)、滋賀県農業気象速報(滋賀県、彦根地方気象台)、JAハリマホームページ、
平成25年度病害虫発生予報第7号(岡山県)、平成25年9月の天気概況(岡山地方気象台)、広島県農業気象速報第33巻25～28号(広島県、広島地方気象台)、
平成25年度農作物病害虫発生予察9月月報(山口県病害虫防除所)、山口県気象月報平成25年9月(下関地方気象台)、
2013年(平成25年)調査データ“水稲害虫”(10月3日更新)(愛媛県病害虫防除所)、平成25年度病害虫発生予察警報第1号について(福岡県病害虫防除所長)、
福岡県気象月報(福岡管区気象台)、平成25年度病害虫発生予報第7号(10月予報)(熊本県病害虫防除所)、熊本県気象月報(熊本地方気象台)、
鹿児島県気象月報(鹿児島地方気象台)

北海道のお米(ホクレン農業協同組合連合会ホームページ)、JA全農あおもりインフォメーション(JA全農あおもりホームページ)、
いわて純情プレミアム(JA全農いわてホームページ)、宮城米安定生産、高品質・良食味米生産の取り組み(JA全農みやぎホームページ)、
全農あきたについて(JA全農あきたホームページ)、事業紹介(JA全農福島ホームページ)、茨城のお米(JA全農いばらきホームページ)、
JA全農さいたまについて(JA全農さいたまホームページ)、事業概要(JA全農ちばホームページ)、事業概要(JA全農いがたホームページ)、
石川の米・麦・大豆(JA全農いしかわホームページ)、福井のお米(JA福井経済連ホームページ)、事業概要(JA全農しがホームページ)、
兵庫のお米(JA全農兵庫ホームページ)、岡山の極み(JA全農岡山県本部ホームページ)、JA全農えひめとは(JA全農えひめホームページ)、
JA熊本経済連部門紹介米穀課(JA熊本県経済連ホームページ)、事業概要(JA宮崎経済連ホームページ)、平成25年度事業計画書(JA鹿児島県経済連ホームページ)、
都府県本部による国産農畜産物の販売力強化に向けた取り組み(全国農業協同組合連合会ホームページ)